

徳島市民病院だより



〒770-0812 徳島市北常三島町2丁目34番地 徳島市民病院
Tel.(088)622-5121(代表)

平成27年

7号

平成27年8月

徳島市民病院の理念

「思いやり・信頼・安心」

母親と赤ちゃん

二人の命守ります

地域周産期母子医療センター



徳島市民病院が設けている地域周産期母子医療センターは、リスクのある妊産婦や新生児の医療を二貫して行うとともに、産科・小児科等の連携により、周産期にかかわる比較的高度な医療を提供する施設です。平成23年4月1日付で徳島県から認定されました。以来、着実に実績を積み上げており、県内における役割は非常に大きくなっています。

周産期母子医療センターには「総合」と「地域」の二種類があります。本県では平成16年に徳島大学病院が総合周産期母子医療センターの認定を受けましたが、その後、センターは設置されず、リスクのある妊産婦や新生児への手厚い医療の提供は困難な状況でした。こうした中、当院では地域の先生方の支援により、また小児科との確実な連携のもと、センターを設置することにしました。

設備面では、2500㎡未満の低出生体重児や集中管理の必要がある疾患を持った新生児に高度な医療を行う

新生児集中治療室(NICU)が6床、新生児治療回復室(GCU)を10床設けています。実績においては、平成25年の徳島県内の分娩件数5694件のうち当院は11・



GCUの様子

古本博孝 センター長の話

センターが設置されて4年余り、順調に実績も上がってきており、市民の信頼を得られているのではないかと自負しています。これも徳島大学病

6%の662件、さらに26年は679件に増えています。今後も、当センターの特色を生かし、より安心・安全な周産期医療が提供できるよう取り組んでいきます。

《周産期母子医療センター》

総合⇨相当規模の母体・胎児集中治療管理室を含む産科病棟や新生児集中治療管理室を含む新生児病棟を備え、母体・児におけるリスクの高い妊娠に対する高度な周産期医療を行える施設▽地域⇨産科及び小児科等を備え、周産期にかかわる比較的高度な医療行為ができる施設



院や地元の医療機関等のご理解・ご協力のたまものと感謝しております。産婦人科・小児科医師の不足など喫緊の課題は少なくありませんが、人材の育成、確保に務め、県内における周産期医療を支えていきたいと考えています。

がん豆知識

②

肺がん

平成25年にがんで亡くなった人は全国で約36万5千人、徳島県では約2千500人に上ります。中でも、死亡原因のトップとなっているのが肺がん、全国で約7万3千人、うち約4万人はたばこが原因と推計されています。たばこの害は喫煙者本人にとどまらず、周囲に流れる煙を吸う受動喫煙により肺がん発症リスクが高まることもわかっています。したがって肺がんの予防には禁煙が何よりも重要で、喫煙者は周りの人に煙を吸わせないよう注意を払う必要があります。

肺がんの症状としては長引く咳、血痰、胸痛、息切れ、体重減少などがありますが、これらは必ずしも肺がん特有のものではありません。進行の程度にかかわらずこうした症状がない場合が多く、早期発見が難しい病気です。

肺がんは、進行するにつれて周りの組織を破壊しながら増殖し、血液やリンパの流れに乗って全身に広がっていきます。早期に発見できれば手術や放射線治療で根治が期待できますが、進行して見つかった場合は薬物療法(点滴や内服薬)で病気の進行を抑え、症状の改善を図ります。近年は多くの薬剤が開発され、以前では考えられなかった効果が期待できるようになりましたが、根治を目指すためには早期発見が重要であることには変わりありません。非喫煙者の肺がんも増加傾向にあるといわれており、たばこを吸わない人にも検診をおすすめします。

(内科・柿内駿司)

お役立ち

熱中症にご用心

内科 井野口 卓



すでにニュースなどでよく耳にしておられるでしょうが、この時季気をつけていたのが熱中症です。平成25年6-9月に熱中症による救急搬送患者数は全国で約6万人、徳島県内では440人、26年の同時期は減少しましたが全国で約4万人、県内は271人と報告されています。高温の日数が多い年や異常に高い気温の日がある年は増加する傾向があり、とりわけ注意が必要です。

原因と症状

熱中症とは気温の高い環境で生じる健康障害の総称です。人の体は、皮膚からの放熱や発汗によって体温を下げますが、外気が皮膚温以上の時や湿度が非常に高くと放熱や発汗ができなくなり、調節機能が働かなくなり、水分や塩分のバランスが崩れ体温の上昇、めまい、倦怠感、けいれんや意識障害などの症状が起こります。

分類と対処法

日本神経救急学会の基準によると重症度は三つに分類されます。

重症度Ⅰ度 ①めまい、大量の発汗、立ちくらみ、こむら返り▽対処法 涼しい場所への移動、安静、水分補給等で、一般的には医療機関の受診を必要としません。

重症度Ⅱ度 ①頭痛、嘔吐、倦怠感、脱力発作、集中力や判断力の低下▽対処法 涼しい場所への移動、冷却、安静、十分な水分と塩分の補給。症状が改善すれば医療機関受診の必要

こまめに水分・塩分の補給を



ちょっとした作業でも炎天下は要注意

時は運動(場合によっては外出も)を控え、室内であっても冷房、扇風機等を積極的に活用し適度な気温や湿度を保つようにしてください。また、こまめに水分を補給し、水だけでなくスポーツドリンクや経口補水液などによって塩分も補給すること心がけましょう。睡眠不足、アルコールの摂取、朝食の未摂取、体調不良時に発症しやすいので、毎日の健康管理も大切なことです。

はありますが、水分を自力で摂取できない場合や症状に改善が見られない場合は医療機関の受診が必要です。重症度Ⅲ度 ①意識障害、けいれん、運動障害▽対処法 涼しい場所への移動、冷却、安静にし直ちに救急車を要請してください。

予防
高温、多湿の状況避けることが最も重要で、具体的には高温、多湿

インタビュー

徳島市民病院には70人ほどの医師や研修医がいて医局会という組織をつくっています。そのまとも役が医局長で任期は2年、医局員による選挙で選ばれます。4月から医局長として奮闘されている中野俊次医師(脊椎・人工関節センター長、写真)に、医局会への思いや医局長としての抱



「より働きやすい環境に」 中野俊次・医局長

「他に役割や期待する点」
「日夜、自らの業務に専念している医師たちは、ある意味孤独です。情報の共有やコミュニケーションが欠かせません。また、個々の先生方

に、そして何よりも、多くの患者さんに「ここで、治療してもらって良かった」と言ってもらえる病院にしたい。医局長としての願いですが、医局会の総意であってほしいと思います。これからの2年、この思いを胸に精一杯走り続けるつもりです」

負などをお聞きしました。
「医局会はどのようなことをするのですか。」
「毎月第2月曜に開いていて、各診療科から出てくる案件、病院の経営状況、安全対策等についての審議するほか、ここでの意見や要望をまとめ、内容によっては関係課や部署に伝えたり、交渉したりが病院の経営状況や今後の方針・展望といったことに関心を持ち、病院のレベルや業績を向上させたいとの高い意識を持って努力することが大切で、医局会はそのことを確認し合う場でもあります。皆がまとまって意見や要望を出し行動に移していければ、もともと働きやすい職場になるし、病院全体の環境もよくなると思います」
「医局長としての抱負を。」
「医師が楽しく充実して働ける病院

市民病院 “えとせとら” ②

Q. 入院している知人のお見舞いをしたいのですが、お見舞い品でNGなものがありますか？

A. 徳島市民病院では、感染やアレルギー、食事制限のある方などの観点から生花や食べ物のお見舞いはお控えいただいています。
その他一般的にお見舞い品として好ましくないものとしては、スリッパやパジャマ、石けん・歯ブラシなどの洗面用具。これらは入院生活に必要だろうと用意したくなりますが、「入院生活が長引く」イメージを与えてしまいます。
逆に、喜ばれる(人気のある)お見舞い品は、本や雑誌、テレホンカード、お手紙・はがきなどです。入院中は、時間が長く感じられる方も多く、気が紛れたり、時間をつぶせたりするものが喜ばれる傾向にあります。
入院している人の多くは、病気などが原因で気分が下降気味です。そんな状態のときは、お見舞いしてきた人のマナーが気になるもの。それぞれで異なる相手の状況を踏まえ、不快な思いをさせない品を選びましょう。

第27回 徳島市民病院地域医療連携会



豊崎 徳島市医師会会長

医師ら100人余交流

徳島市民病院と共同診療登録医との交流などを目的とした第27回徳島市民病院地域医療連携会が7月30日、市内のホテルで開かれました。

登録医44人と当院の医師や看護師ら58人が参加。当院の惣中康秀院長の挨拶などのあと、三宅秀則がんセンター長が「徳島市民病院がんセンターについて」、古本博孝産婦人科総括部長が「**卵巣癌治療の最近の話題—女性の原発不明癌性腹膜炎は化学療法の良い適応—**」と題してそれぞれ講演しました。

続いて開かれた懇親会では、当院の新任医師や臨床研修医、各診療科の紹介などもあり、和気藹々とした雰囲気の中、意見交換したり交流を深め合ったりしました。

同連携会は当院の地域医療連携推進事業の一環で、毎年この時期に開いています。



徳中 徳島市民病院長



徳島市民病院 ボランティア募集

徳島市民病院では、患者さんが少しでも快適な療養生活が過ごせるよう、患者さんをサポートする活動をしていただくボランティアを募集します。



○活動内容

●患者さん・来院者への院内案内●車椅子を利用される患者さんの介助●緩和ケア病床での活動補助●樹木の剪定・植栽●院内での演奏活動など

○活動日・時間

月曜日から金曜日までの午前8時30分から午後4時まで（祝日及び年末年始の休日は休止）

※活動内容により、時間は異なります

※ご希望の活動日・時間はご相談させていただきます

※学生の方は休暇中の短期ボランティア活動も可能です

○募集対象

心身ともに健康な方でボランティア活動に熱意がある方

○面接

簡単な面接をさせていただきます

○オリエンテーション

活動開始前に活動内容、病院の概要、注意事項等の説明を行います

○申し込み・問い合わせ先

患者支援センター（電話 088-622-5121（内2180））

ボケ防止に碁会所へ

徳島市・新開 英毅（72歳）

数年前、特別養護老人ホームで管理者をしていた頃の思い出である。久しぶりに囲碁をする機会があった。ある日、ショートステイにIさんが入所してきたのだ。Iさんは80歳を過ぎていて持病の糖尿病もあり、次第に弱ってきているものの無類の囲碁愛好家で、自称四段の腕前である。

私の先番で始めた。序盤はリードしていたが中盤に差し掛かってから攻守が逆転してしまった。打ち始めたときと比べると昔の頃の強さが蘇ったのか、打つ手に無駄がなく自信にあふれていた。私は、年が経れば棋力は落ちるものと思っていたのだが…。

スポーツは体力が衰えればそれ相当の力しか出ない。囲碁は別なのだろうか。Iさんが言うには「子どものとき

私の健康法

に覚えた囲碁は今も体のどこかに宿っているものだ。囲碁をしているといつかのまにか手が良い方向に動いていく。しかし、この体は思うようにならないわ。その後、Iさんは特養で静かな余生を送っているそうである。

最近、アンチエイジングという言葉をよく耳にする。事典をひくと「抗老化」「老化を抑制すること」とある。肌や体力の年齢はどう頑張っても限度はあるが、脳には年齢の限界はないらしい。それどころか、鍛え方によっては若い時代を遙かに凌ぐ可能性があることが分かっている。漢字パズル等の本格的なパズルや囲碁、将棋、オセロといった頭脳パズルは記憶力、論理性、分析力、直感的判断力などを鍛えるといわれている。

そのことを証明すべく、そして何よりもボケ防止に、現在週に1、2回碁会所等に通って囲碁を楽しんでいる。



徳島市 黒田美知子さん

「美しく段の花が咲いた。心を広く、そして心を潤してくれるように。胸の中に夢が生まれそうだ」

俳句・川柳コーナー

心までカビカビになるドライアイ

(徳島・さっちゃん)

年金出て声うるはしき夕蛙

(徳島・紫花菜)

再生医療 夫婦仲も頼むでよ

(阿南夫の邪鬼)

むくみです。太ったわけではありません

(徳島・ぬくみちゃん)

マジ？嫌み？マスク顔見て「美人やなあ」

(板野・茂さん)

病室に戦士ふたりの登寝かな

(徳島・真鍋小竹)

病得て島の外湯をめぐりけり

(藍住・ケータン)

回復期 心身ともに快福期

(石井・男性公務員)



病院まつりにぎわう

徳島市民病院恒例の病院まつりが7月25日に当院で開かれました。

医療機器の展示コーナーや車いす・杖、バールンアート等の体験のほか、がんセンターの医師によるがん相談、健康チェック、さらにはバザー、コンサートなど盛りだくさんの催しがあり、大勢の親子連れらでにぎわいました。

